

パレスチナ・ガザ緊急支援活動終了報告

パレスチナ事業担当 藤屋 リカ



■経済危機が栄養失調に直結

JVCは、ハマス政権の発足に伴う制裁を発端とした深刻な経済危機に陥ったパレスチナ・ガザ地区での緊急支援を〇六年五月から開始しました（詳しくは左表及び本誌二百五十四号参照）。主な支援内容は、子どもの栄養を専門とする現地のNGO「人間の大地」の二センターを拠点として、中等度・重度の栄養失調児への栄養食の提供（週三日、一日二度）と、母親への栄養指導、そして親子がセンターに来るための交通費の支援でした。

栄養食は地区内で入手できる季節の新鮮な食材を用い、母親には自宅で作れる栄養食の作り方や栄養についての情報を提供しました。経済危機によって栄養失調児が増し、ほとんどの家族はセンター

に通う交通費さえ捻出できなくなったため、「栄養食、情報提供、交通費」セットでの支援を実施したわけです。

当初三カ月の予定で支援を開始しましたが、その都度状況を鑑みて二度延長し、〇七年三月末に終了しました。延べで約一九、二〇〇人、一日平均七十三人の栄養失調児に対しての支援を実施しました。

■いつまで「緊急支援」を？

〇七年二月にノーハちゃんが最初にセンターに来た時は、月齢七・五カ月なのに体重は四・五キロで二カ月児ほどしかなく、重度の栄養失調と診断されました（写真右側）。彼女はそこからセンターに通って栄養を取り、その母親は栄養指導を受けることになりました。一カ月後には体重が一・三五キロ

も増え（写真左側）、その後も順調に回復していききました。母親がとても熱心で、センターで習ったことをすべて自宅で実践したことが大きかったのです。

軍事侵攻によって社会状況が著しく悪化した時期には、ケアを受けている子どもでさえ回復が見られないこともありました。しかしその後は、多くの子どもは六〜九週間のケアを受けると、正常、あるいは月一回の検診で心配ない程度の栄養状態に回復していききました。

長期化する紛争状況のなかでは、緊急支援活動は「いつ終了するか」を常に問われます。子どもたちが栄養を必要とする状況が今もなくなつたわけではないのです。この点について「人間の大地」の代表と何度も話し合い、「緊急」支援の延長を重ねるのではなく、厳しい

状況の中でも自分たちで何かできる力を身につけていくことの大切さを確認しました。そして、JVCからの支援を終了させることにしました。今後、「人間の大地」は独自に資金を調達し、内容を検討しながら支援を継続していくこと、そして母親たちが自分で収入を得て子どもをケアしてもらえらる仕組みも考えていく、ということになりました。外部からの支援に頼るだけでなく、まずは身近で実現性の高い方法（例えば母親がセンターでの作業補助に従事するなど）を模索することから始めています。

■希望を失わせないために

紛争地での緊急支援では、根本的な問題が解決しない限り支援の終わりが見えないのが実情です。栄養支援を含む人道支援だけではなく、根源に関わる政治的課題の解決が必要とされます。今回の緊急支援は、それ自体の限界を認識しつつも、私たちと共にある人々の命と希望が守られるために、そして人々自身が持つ力を最大限活かせるようになるように、と願いながらの活動となりました。

緊急支援としては終了しましたが、厳しい状況が続くガザ地区において、〇三年から実施しているガザ地区での幼稚園を拠点にした栄養支援を続けていきます。

表1・社会状況と支援の推移

	社会状況	支援状況
06年 5月	パレスチナ経済危機の報告（世界銀行、国際NGO）	緊急栄養支援開始・ガザセンターにて（7月末までの予定）
6月	イスラエル軍、ガザ地区侵攻	ハンユニスセンターにも支援拡大
7月	軍事攻撃によるインフラの破壊	ニーズの高まりに伴い支援延長を決定（11月末まで）
8月	軍事攻撃が続く	
9月	公務員の給与未払いに対するストライキが頻発	
10月		支援再延長の決定（07年3月末まで）
11月	イスラエル軍、ガザ地区より撤退	緊急支援終了の方向性の確定
07年 2月	メッカ合意、パレスチナ自治政府再編（内部混乱の解決、国際社会の支援再開に期待）	3月末までの支援終了を決定
3月		支援終了



■ノーハちゃんの写真。右がセンターにきた直後、左がその1ヵ月後。あきらかに健康そうになった。